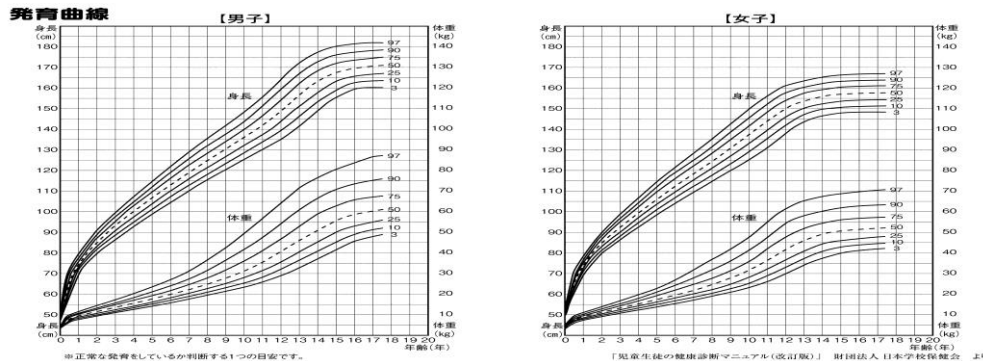


健康診断が変わります

吉川中学校保健室

○座高の検査について、必須項目からなくなります

児童生徒の発育を評価する上で、身長曲線・体重曲線等を積極的に活用します



平成28年度より健康診断が変わります。それに伴い健康診断を円滑に実施するため「こどもの健康調査」もかわります。

○「寄生虫の有無」の検査が必須項目からなくなります

日本全体の検出率の平均がだいたい1.0%以下になったということ、衛生的に手洗いなどの教育を徹底すれば解決できるのではないかということで、今後は検診項目から除外してもよいと決まりました。

○「四肢の形態」を必須項目として加えます

「こどもの健康調査」に整形外科に関する項目を新たに追加します。

検査の意義

成長発達の過程にある児童生徒の脊柱・胸郭・四肢・骨・関節の疾病及び異常を早期に発見することにより、心身の成長・発達と生涯にわたる健康づくりに結びつけられます。

1 背骨が曲がっている

肩の高さ、肩甲骨の高さや後方への出っ張り・ウエストラインの左右差の有無を確認します
また前屈テストを実施します

*前屈テスト

ゆっくり前屈させながら、背中肋骨の高さに左右差（肋骨隆起、リブハンプ）があるかどうか確認します。児童生徒がリラックスした状態で、両腕を左右差が生じないように下垂させ、両側の手掌を合わせて両足の中央に来るようにします。背部の高さが必ず目の高さにくるように前屈させながら、背中頭側から腰の部分まで見る。脊柱側湾症等のスクリーニングになります。

2 腰をまげたり、反らしたりすると痛みがある

かがんだり（屈曲）、反らしたり（伸展）したときに、腰に痛みが出るかどうかをたずね、後ろにそらせることにより腰痛が誘発されるかどうか確認します。
脊椎分離症等のスクリーニングとなります。

3 上肢に痛みや動きの悪いところがある

①肩関節に痛みや動きが悪いところがある。

両肘関節を伸展させた状態で前方挙上させて異常の有無を検査します。上腕が耳につくか否

かに注意します。野球肩などのスクリーニングとなります。

②肘関節に痛みや動きの悪いところがある。

両前腕を回外させて、手掌を上に向けた状態で肘関節を屈曲・伸展させて異常の有無を検査します。特に伸展では上肢を肩関節の高さまで拳上させて検査することにより、わずかな伸展角度の減少を確認できます。完全に伸展できるか、左右差がないかを観察します。例えば、野球肘では、腕を伸ばすと、片方だけまっすぐに伸びなかったり、最後までまげられなかったりします。

4 膝に痛みや動きの悪いところがある

膝のお皿の下の骨の周囲を痛がる場合は、オスグッド病を疑うこともあります。動きが悪い、ひっかかるなどの症状だけのももあり、曲げ伸ばしをしてうまく曲げられない場合は注意が必要です。

5 片足立ちが5秒以上できない。しゃがみこみができない

立つ、歩行、しゃがむなどの動作がぎこちないか、また左右それぞれに片脚立ちするとふらつかないか、骨盤が傾いたり、背骨が曲がったりしないかを観察します。大腿骨頭すべり症、ペルテス病、発育性股関節形成不全（先天性股関節脱臼）等のスクリーニングとなります。

○色覚の検査について

検査の意義

学校における色覚の検査については、平成15年度より児童生徒の健康診断の必須項目から削除し、希望者に対して個別に実施してきたところ、児童生徒が自身の色覚の特性を知らないまま卒業を迎え、就職に当たって初めて色覚による就業規則に直面するという実態の報告や、保護者の方に対して色覚異常及び色覚検査に関する基本事項についてのお知らせが十分に行われていないのではないかという指摘もありました。

「こどもの健康調査」に色覚に関する項目を新たに追加しました。

児童生徒や保護者の方に事前の同意を得て、希望者には学校生活において不都合はないか個別に検査します。その結果必要があれば、専門医への受診・相談をお勧めします。